

30



Pro-Server EX をサービスとして起動したい！

30.1	『Pro-Server EX』をサービスとして起動してみよう！	30-2
30.2	制限事項.....	30-9

30.1 『Pro-Server EX』をサービスとして起動してみよう！

『Pro-Server EX』は、起動方法として「通常モード」と「サービスモード」の2種類のモードが用意されています。インストール直後は「通常モード」となっており、通常のアプリケーションと同様に、Windows へログオンして起動します。（通常モードの起動方法については、「3.1 『Pro-Studio EX』を起動しよう」をご覧ください。）

『Pro-Server EX』を「サービスモード」にすると、Windows が起動した時点で『Pro-Server EX』も起動するように設定できるため、起動するために Windows にログオンする必要がなくなります。実際にシステム運用するときなどに便利な機能です。

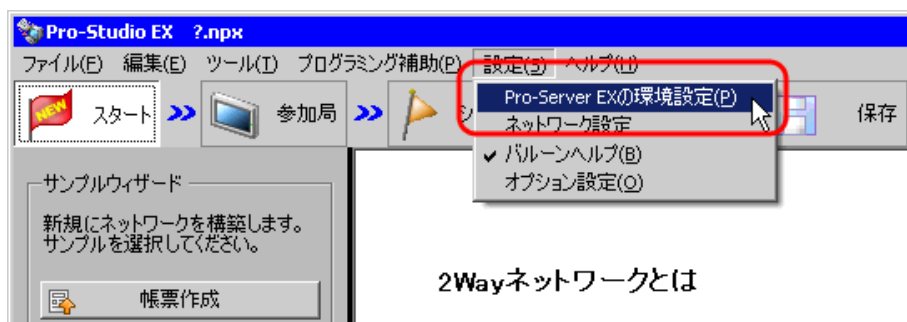
重要

- ・『Pro-Server EX』をサービスとして起動した場合、「Excel 帳票」アクションや「Excel で報告書を作成」アクションが使用できません。
- ・WinGP SDK をお使いの場合は、「サービスモード」は使用できません。
- ・Windows Vista 以降で『Pro-Server EX』をサービスとして起動するには、「ユーザーアカウント制御機能」を無効にする必要があります。詳しくは「30.2 制限事項」をご覧ください。
- ・上記以外にも制限事項があります。詳しくは「30.2 制限事項」をご覧ください。

30.1.1 『Pro-Server EX』をサービスモードにするための設定

『Pro-Server EX』を Windows のサービスとして起動（サービスモード）するためには、まず『Pro-Studio EX』を起動して『Pro-Server EX』の動作モードを「サービスモード」に設定する必要があります。

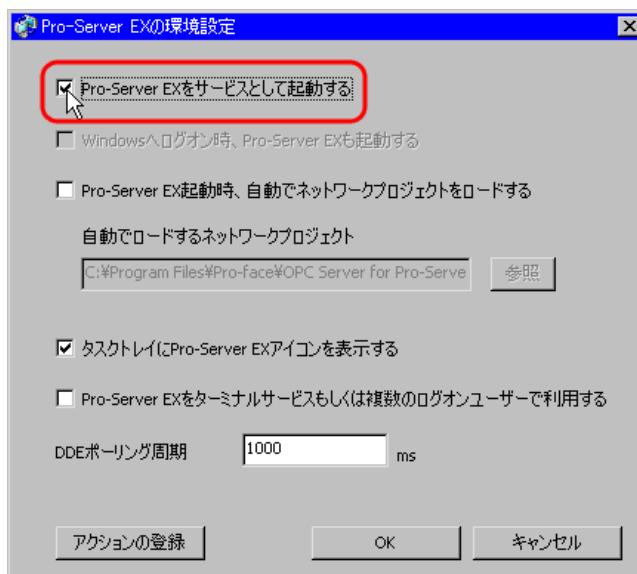
- 1 [設定] メニューから [Pro-Server EX の環境設定] をクリックします。



MEMO

- ・Windows の [スタート] ボタンから [すべてのプログラム (P)] - [Pro-face] - [Pro-Server EX] - [Pro-Server EX 環境設定] を選択しても、「Pro-Server EX の環境設定」画面を表示することができます。
- ・『Pro-Server EX』を Windows Vista 以降で利用する場合、「環境設定」を実行する前に [ユーザーアカウント制御] ダイアログが表示されます。ダイアログが表示された場合は [許可] をクリックしてください。

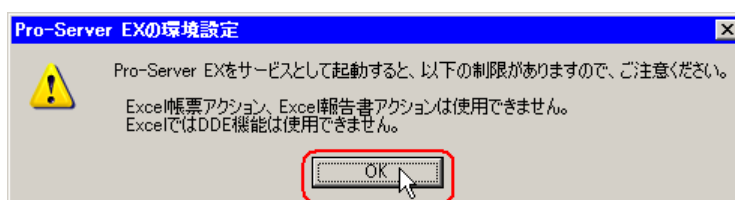
2 [Pro-Server EX をサービスとして起動する] をチェックします。



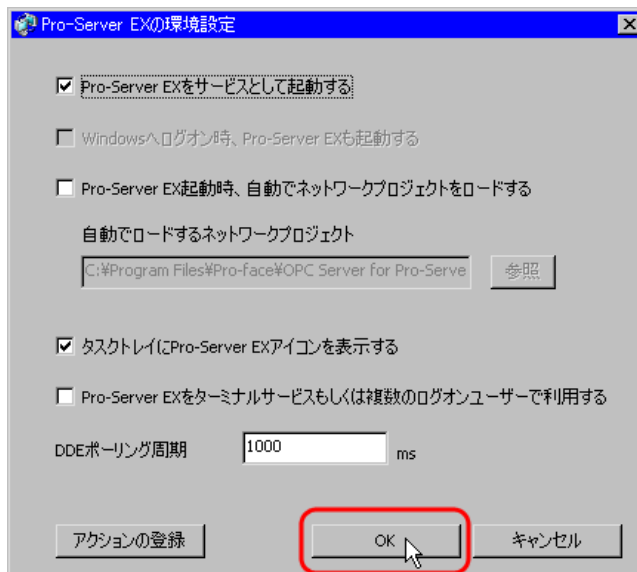
MEMO

- ・『Pro-Server EX』を「通常モード」で起動する場合は、[Pro-Server EX をサービスとして起動する] のチェックを外します。

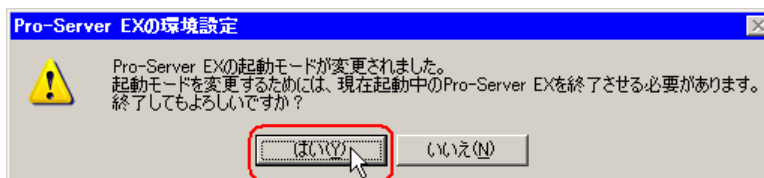
3 [Pro-Server EX をサービスとして起動する] にチェックを入れた場合、制限事項がある旨のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



4 [OK] ボタンをクリックします。



『Pro-Server EX』を起動している状態で「Pro-Server EX をサービスとして起動する」のチェックの状態を変更すると、下記のようなダイアログが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてください。



MEMO

- 『Pro-Server EX』を Windows Vista 以降で利用する場合、ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。

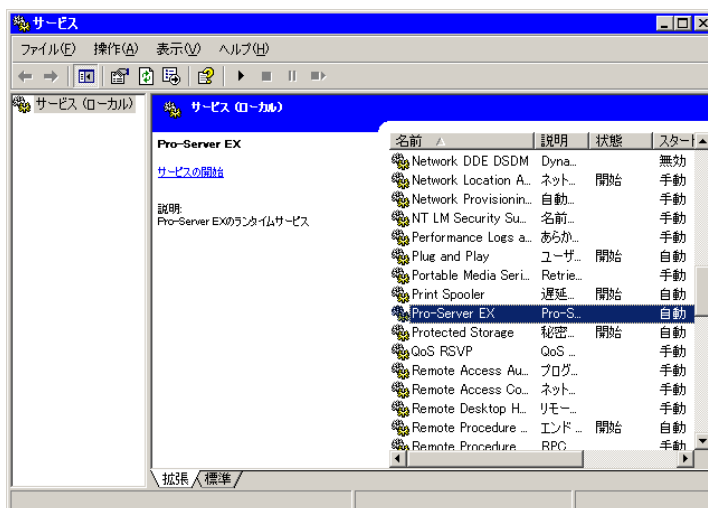
5 [OK] ボタンをクリックします。



MEMO • すでに『Pro-Server EX』を起動している場合は、いったん終了し、再度起動してください。

☞ 通常モードの場合：「『Pro-Server EX』の起動について（通常モード）」
サービスモードの場合：「30.1.2 「サービスモード」での『Pro-Server EX』の起動と終了」

MEMO • [Pro-Server EX をサービスとして起動する] にチェックを入れた場合（サービスモード）、Windows のサービス画面の設定で「Pro-Server EX」の「スタートアップの種類」が「自動」に設定されます。次回パソコンを起動または再起動したときに、『Pro-Server EX』が自動的に起動します。



• [Pro-Server EX をサービスとして起動する] にチェックを外した場合（通常モード）、Windows のサービス画面の設定で「Pro-Server EX」の「スタートアップの種類」が「手動」に設定されます。

30.1.2 「サービスモード」での『Pro-Server EX』の起動と終了

『Pro-Server EX』の起動方法を「サービスモード」にした場合、『Pro-Server EX』はパソコンを起動や再起動をしたときに自動的に起動されますが、起動方法を変更した直後や手動で『Pro-Server EX』を終了した場合は、下記の方法で起動してください。

重要

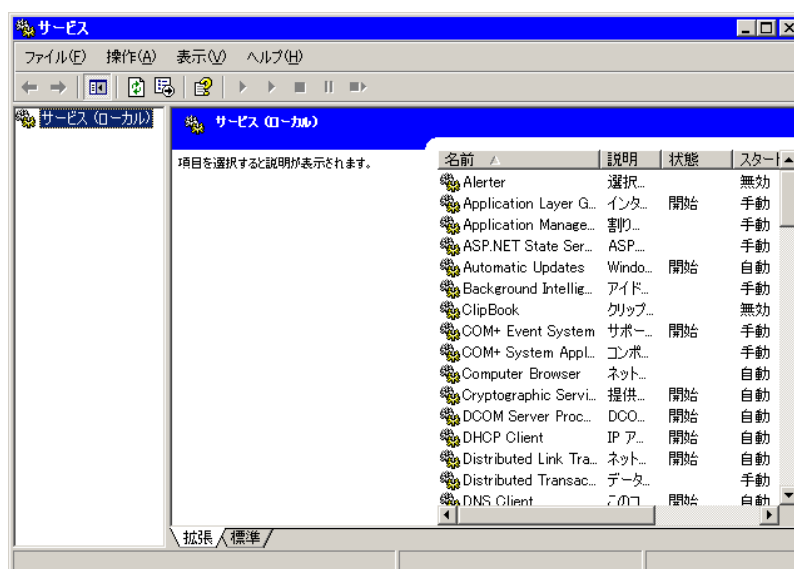
- この作業は、「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザー名でログオンしてください。ユーザー権限については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 『Pro-Server EX』の起動方法が「通常モード」になっている場合は、この方法では起動できません。「30.1 『Pro-Server EX』をサービスとして起動してみよう！」をご覧になり、「サービスモード」に変更してください。

MEMO

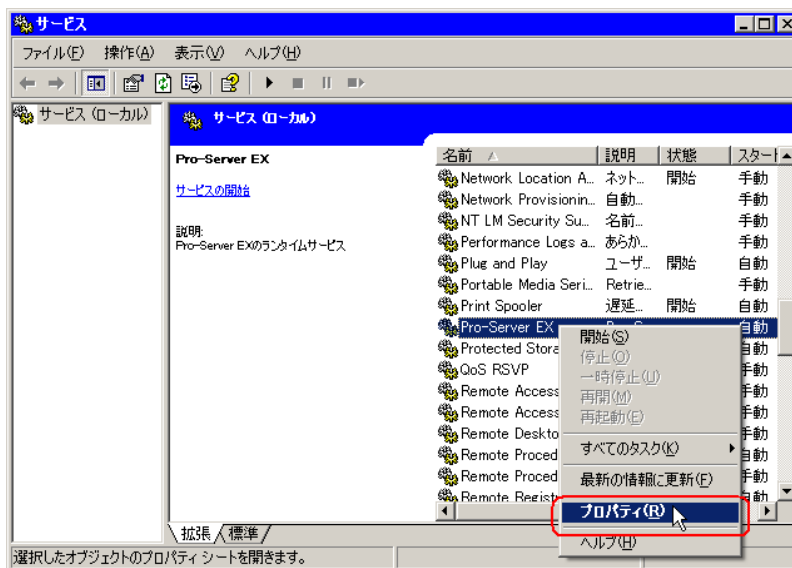
- ここで説明する起動方法以外にも、「サービスモード」に設定されていれば、デスクトップの「Pro-Server EX」のアイコンをクリックしたり、Windowsの[スタート]ボタンから「Pro-Server EX」を選択しても起動することができます。

また、ここで説明する終了方法以外にも、Windowsの[スタート]ボタンから「Pro-Server EXの終了」を選択しても終了することができます。

- 1 「コントロールパネル」から「管理ツール」 - 「サービス」を開きます。

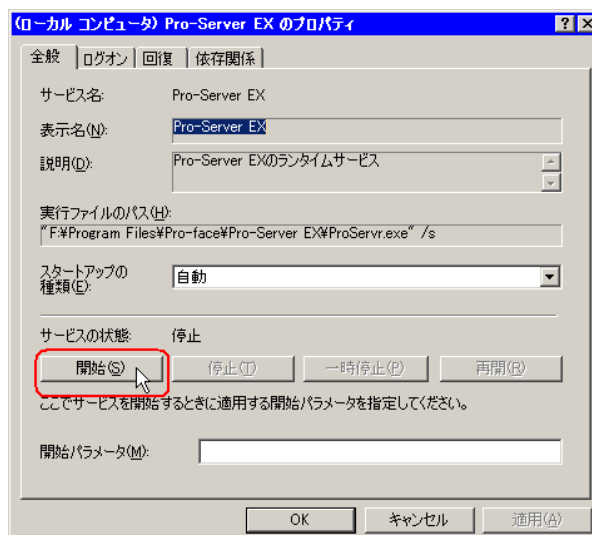


2 「Pro-Server EX」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。



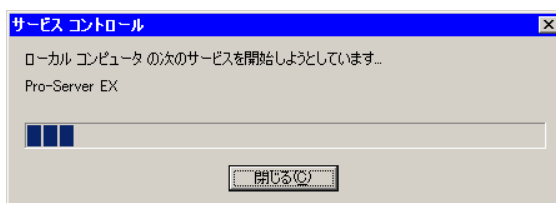
- MEMO**
- ・メニューから「開始」を選択しても、『Pro-Server EX』を起動することができます。また、「停止」や「再起動」を選択すると、『Pro-Server EX』を終了したり再起動することができます。

3 [全般] タブの「スタートアップの種類」が「自動」になっていることを確認し、「開始」ボタンをクリックします。

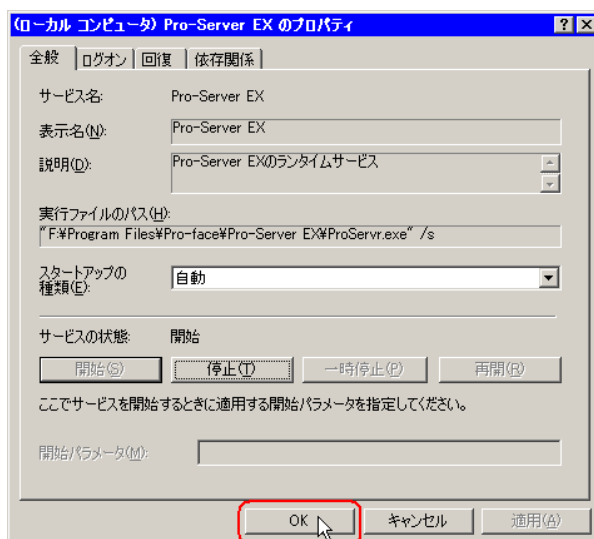


- MEMO**
- ・「[停止]」ボタンをクリックすると、『Pro-Server EX』を終了することができます。
 - ・「スタートアップの種類」が「自動」になっていない場合は、パソコンを起動や再起動したときに、自動的に『Pro-Server EX』が起動しません。

「サービスコントロール」画面が表示されます。



4 [OK] ボタンをクリックします。



30.2 制限事項

MEMO

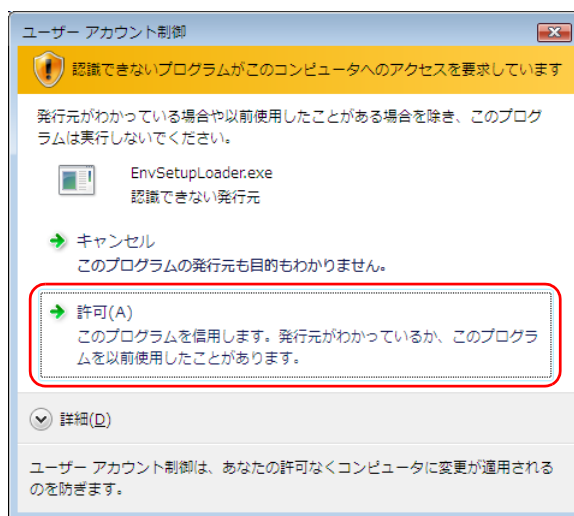
- お使いの OS により表示や各部の名称が異なることがありますが、同等の機能を持つものと読み替えてください。

■ 『Pro-Server EX』を「サービスモード」で起動させる場合の制限事項

- 必ず「デスクトップとの対話をサービスに許可する」にチェックを入れてください。チェックを入れない場合は、動作は保証されません。
以下の手順で設定を確認できます。
 - 「コントロールパネル」から「管理ツール」→「サービス」を選択します。
 - 「Pro-Server EX」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。
 - 「ログオン」タブをクリックし、「デスクトップとの対話をサービスに許可する」にチェックが入っていることを確認します。
チェックが入っていない場合は、チェックを入れてください。
 - 「OK」ボタンをクリックします。
- 「Excel 帳票アクション」および「Excel 報告書アクション」は使用しないでください。使用した場合の動作は保証されません。
- 『Excel』の「DDE 機能」は使用しないでください。『Excel』で「DDE」機能を使用すると、Excel がフリーズします。

■ Windows Vista 以降で利用する場合

- 「環境設定」を実行する前に「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されます。
ダイアログが表示された場合は「許可」をクリックしてください。



- 『Pro-Server EX』をサービスとして起動するには、「ユーザーアカウント制御機能」を無効にする必要があります。

「ユーザーアカウント制御機能」を無効にする手順は以下をご覧ください。

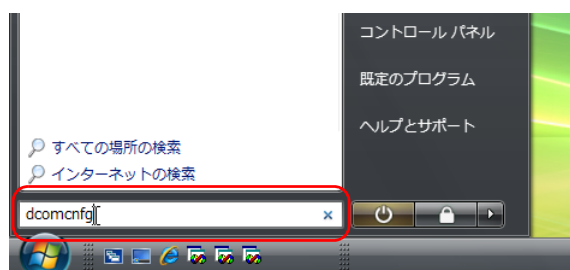
1. 「コントロールパネル」から「ユーザーアカウント」を選択します。
2. 「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリックします。
(Windows7、Windows 8 / 8.1 をご使用の場合は、「ユーザーアカウント制御設定の変更」をクリックします。)
3. [ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] のチェックを外して、[OK] ボタンをクリックします。
(Windows7、Windows 8 / 8.1 をご使用の場合は、「通知しない」にカーソルを設定します。)

- 『Pro-Server EX』をサービスとして起動させる場合、以下のアクションは未サポートとなります。

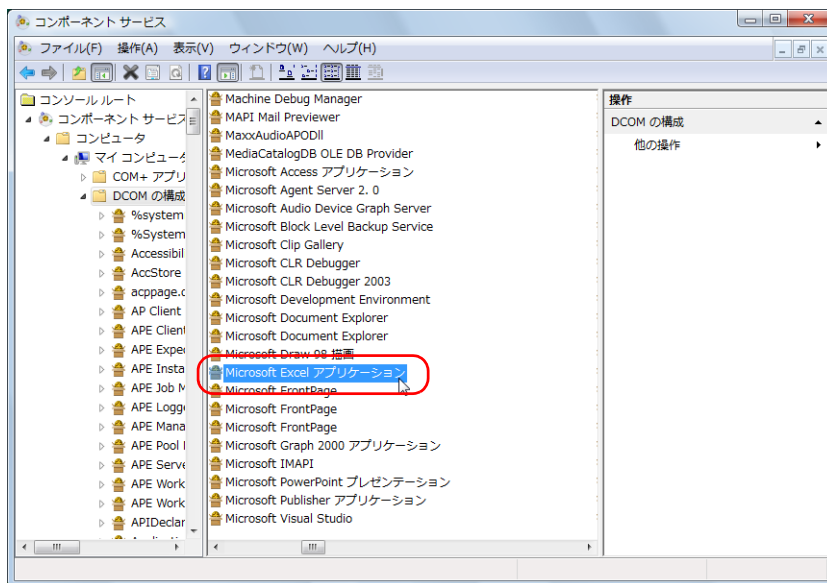
- Excel のブックヘッダーを書き込む
- GP ログデータアップロード
- GP ファイリングデータの自動アップロード
- GP ファイリングデータの自動ダウンロード
- Excel レシビダウンロード
- データベースへのアップロード
- データベースからのダウンロード

これらのアクションを実行するとエラーが発生し、処理されません。ただし、以下の設定を行うと、サービス起動による実行が可能になります。

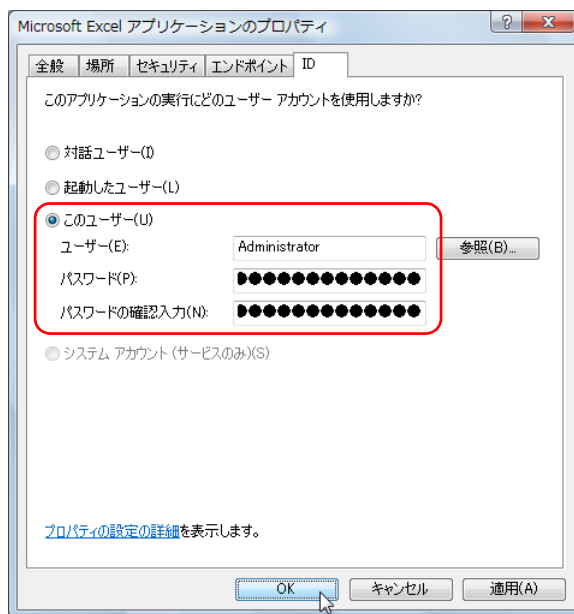
1. [スタート] メニューのコマンド入力欄に「dcomcnfg」と入力します。



2. [コンポーネントサービス]が表示されます。左側のツリーから[コンソールルート]→[コンポーネントサービス]→[コンピュータ]→[マイコンピュータ]→[DCOMの構成]→[Microsoft Excel アプリケーション]を選択します。



3. 右クリックメニューの[プロパティ]を選択します。
 4. プロパティダイアログ内の[ID]タブを表示します。
 5. [このユーザー]を選択して、[ユーザー]に管理者権限を持つユーザを入力し、[パスワード]を設定します。



6. [OK] ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。
 以上の設定により、上記アクションは使用できますが、ログインしたユーザーは Microsoft Excel を使用できなくなります (OLE に関するエラーが発生します)。したがって、Microsoft Excel のファイルを開くには別のパソコンを使用する必要があります。これは、サービスから Microsoft Excel を使用する上での制限事項となります。あらかじめ、ご了承ください。

